目次

編集にあたって　姜尚中
巻頭言　成田龍一
凡例

第1章　ある独立運動の傍観者の葛藤
——植民地支配に苦悩する朝鮮の知識人たち　小野容照

はじめに……003
尹致昊（一八六五～一九四五）……007
一、実力を養成する——韓国併合以前　最初期の近代的知識人／アメリカ留学／独立協会／大韓帝国の保護国化／愛国啓蒙運動
二、転向を宣言する——武断政治期　武断政治／一〇五人事件／転向
三、三・一独立運動を批判する　海外の独立運動／民族自決を求めて／冷静な国際情勢分析／朝鮮民族の実力／三・一独立運動に対する立場の表明／政策への不満と交渉
四、実力不足を受けとめる——文化政治期　文化政治の開始と批判／分裂する独立運動／尹致昊の実力養成論
五、弱者として生きる——戦時期
李光洙（一八九二～一九五〇頃）……036
李東輝（一八七三～一九三五）……038
崔南善（一八九〇～一九五七）……042
呂運亨（一八八六～一九四七）……044
その他の人物……048
阿部充家／宇佐美勝夫／宇都宮太郎／斎藤実／寺内正毅／渡辺暢／金明植／宋鎮禹／張徳秀／洪命憙／金思国／金在鳳／金若水／趙東祐／鄭泰信／南万春／朴鎮淳／安在鴻／安昌浩／金奎植／申采浩／徐載弼／徐椿／孫基禎／羅景錫／朴殷植

第2章　祖国の独立と女性の自立を希求した朝鮮の「新女性」たち　井上和枝

はじめに……065

金マリア（瑪利亜）（一八九二～一九四四）……067
一、社会・家庭環境と思想形成過程
二、二八宣言と三一運動
三、大韓民国愛国婦人会結成・裁判闘争
四、中国亡命と臨政国民代表会議
五、米国亡命と槿花会
六、帰国後の活動
その他の人物……093
黄エスタ／羅蕙錫／朴仁徳／劉英俊／高凰京

第3章 朝鮮民族解放の闘い

水野直樹
布袋敏博

はじめに……101
李載裕（一九〇五～四四）……103
予防拘禁所で獄死／辺境の地「三水甲山」に生まれる／京城、開城で勉学を志す／東京での活動——七〇回以上の検束／朝鮮共産党日本総局の一員として／新たな活動形態「京城トロイカ」／三宅鹿之助との出会い／朝鮮共産党再建活動／「農夫」を装った李載裕と李観述／李載裕の検挙と京城コムグループの結成／李載裕の獄中手記／思想犯予防拘禁制度を批判／獄中闘争を続ける
李観述（一九〇二～五〇）……126
朴鎮洪（一九一四～？）……128
金台俊（一九〇五～四九）……130
李景仙（一九一四～？）……131
三宅鹿之助（一八九九～一九八二）……132
金九（一八七六～一九四九）……134
金元鳳（一八九八～一九五八？）……135
金枓奉（一八八九～一九六〇？）……136
武亭（一九〇五～五一）……137
その他の人物……138
李陸史／尹奉吉／趙素昂／林和／磯谷季次／任淳得／朴次貞／玄永燮／南次郎／塩原時三郎

第4章 中国の近代文学
——二〇世紀前半／清朝末期・中華民国期 藤井省三

はじめに……149

魯迅（一八八一～一九三六）……152
一、紹興時代——一八八一～一九〇二（南京での三年を含む） 古都に生まれて／周家の没落と南京新式学堂への入学
二、東京時代——一九〇二～〇九（仙台での一年半を含む） 「帝都」への留学／仙台で医学を学ぶ／本格的文学運動の始まり
三、北京時代——一九〇九～二六（杭州・紹興での三年を含む） 杭州・紹興の師範学堂とかつらの辮髪／皇帝の都から「文化城」へ／文学革命と五・四運動／官僚学者から新文学者への変身／「彷徨」期
四、上海時代——一九二六～三六（廈門・広州の一年余を含む） 北伐戦争と廈門・広州への流浪／共和国の発展とオールド上海の繁栄／文化市場の急成長／文芸論戦とゴシップ／左翼文壇の旗手としての死

張愛玲（一九二〇～九五）……179
一、張一族の人々および張愛玲の香港留学
二、張愛玲の香港戦争体験と日本軍占領下の上海デビュー
三、珠玉の短編集『伝奇』の世界——「傾城の恋」「封鎖」を中心に
四、戦後の張愛玲

周作人（一八八五～一九六七）……198
陳独秀（一八七九～一九四二）……202
沈従文（一九〇二～八八）……206

その他の人物……209
蘇曼殊／林語堂／茅盾／郁達夫／徐志摩／老舎／謝冰心／丁玲／巴金／楊逵／銭鍾書／蕭紅／内山完造／武者小路実篤／清水安三／芥川龍之介／佐藤春夫／金子光晴／林芙美子／室伏クララ／増田渉／李陸史／タゴール／エロシェンコ／エドガー・スノー

第5章 植民地統治と台湾自治 許雪姫

はじめに……235

林献堂（一八八一～一九五六）……237
一、日本統治前の生涯（一八八一～九五） 家庭背景と知的背景

二、公務、農・商業および政治運動に身を投ずる（一八九五～一九三七）　公務へ身を投ずる／農・商業の経営／台湾民族運動の展開
三、第二次世界大戦期（一九三七～四五）　絶え間ない圧力――「祖国事件」と「地図事件」／「環球遊記」事件／様々な役職を引き受け、対日協力をせざるを得なくなる
四、戦後の窮状と必死の奮闘（一九四五～四九）　「聯省自治」と「日華親善」を主張する／台湾省参議員、国民参政員、台湾省政府委員への就任／二・二八事件の衝撃
五、さらば台湾！（一九四九～五六）　病気治療を理由に渡日し、難を逃れる／林献堂の台湾に対する「究極的関心」のありかとは 257

蔡培火（一八八九～一九八三） 259

蔣渭水（一八九一～一九三一） 261

陳炘（一八九三～一九四七） 262

田健治郎（一八五五～一九三〇） 264

楊肇嘉（一八九二～一九七六） 265

謝雪紅（一九〇一～七〇） 267

その他の人物
梁啓超／羅万俥／林呈祿／葉栄鐘／林茂生／朴錫胤／伊沢多喜男／長谷川清／安藤利吉／田川大吉郎／清瀬一郎／連温卿／宮原武熊／辜顕栄／許丙／陳儀／白崇禧／厳家淦／黄朝琴／李翼中／丘念台／辜振甫／廖文毅／林正亨

第6章　インドネシア女性解放運動の先駆け
――カルティニの見た「光」と「闇」

富永泰代

はじめに 283

カルティニ（一八七九～一九〇四） 285
無理を強いるジャワの慣習――婚前閉居・結婚問題／ヤコブスの友人達との「出会い」――婚前閉居打破宣言／平和運動への共感／ジュパラの木彫工芸振興活動／カルティニの没後に生まれた「物語」――『闇を越えて光へ』の出版

アベンダノン（一八五二～一九二五） 294

アレッタ・ヤコブス（一八五四～一九二九） 297

その他の人物 299
チョンドロネゴロ四世／ノト・スロト／チプト・マングンクスモ／デヴィ・サルティカ

第7章 インドにおける女性運動 粟屋利江

はじめに …… 305
カマラーデーヴィー・チャットパディヤーイ（一九〇三～八八） …… 307
生まれ・家族／女性運動／民族運動・政治／日本の印象／独立後の諸活動／カマラーデーヴィーの生涯と時代
サロージニー・ナーイドゥ（一八七九～一九四九） …… 317
アルーナー・アーサフ・アリー（一九〇九～九六） …… 318
ムットゥラクシュミ・レッディ（一八八六～一九六八） …… 320
その他の人物 …… 322
アニー・ベサント／マーガレット・カズンズ／パンディター・ラマーバーイー／ルカイヤ・サハーワト・フサイン／サララー・デーヴィー・チャウドラーニー

第8章 女性翻訳家がつないだイスラーム的男女平等論 帯谷知可

はじめに …… 329
オリガ・レベヂェヴァ（一八五四～一九一二以降） …… 330
故郷カザン／カザンでの学びから国際的な学知のサークルへ／アフメト・ミドハトとの出会いとイスタンブルの日々／東洋学の組織化とタタール人啓蒙活動／レベヂェヴァ著『ムスリム女性の解放について』
アフメドベク・アガエフ（アフメト・アアオール）（一八六八～一九三九） …… 341
ファトマ・アリイエ（一八六二～一九三六） …… 343
ニコライ・オストロウーモフ（一八四六～一九三〇） …… 346
その他の人物 …… 348
アフメト・ミドハト／カースィム・アミーン／シェフィカ・ガスプリンスカヤ／ムーサー・ビギエフ

第9章 韃靼の志士——イスラーム世界と日本 小松久男

はじめに …… 353

アブデュルレシト・イブラヒム（一八五七～一九四四） …… 355
一、レシト・カーディーへの道　苦学の青年——シベリアからアラビアへ／ムスリム宗務協議会
二、ロシア・ムスリムの覚醒　反骨の筆／ロシア・ムスリム大会
三、アジア周遊　日本への旅路／韃靼の志士／『イスラーム世界』／亜細亜義会／アジア歴訪——韓国、中国、シンガポール、インド、メッカ
四、戦争と革命　『ムスリムの親交』——ストルイピンとの対決／日本との紐帯／第一次世界大戦／ソビエト・ロシアへ／ソビエト・ロシアでの四年間
五、大日本帝国とイスラーム　コンヤの村から東京へ／日本の聖戦／東京モスク／英雄の孤独

リザエッディン・ファフレッディン（一八五九～一九三六） …… 399
ムーサー・ビギエフ（一八七五～一九四九） …… 402
ムラト・レムズィー（一八五三～一九三四） …… 404
その他の人物 …… 406
シハーベッディーン・メルジャーニー／ムハンマディヤール・スルタノフ／マフムードホジャ・ベフブーディー／ミュニフ・パシャ／ユスフ・アクチュラ／メフメト・アーキフ／エンヴェル・パシャ／大原武慶／山岡光太郎／メフメト・ヒルミ中尾（中尾秀男）／マウラヴィー・ムハンマド・バラカトゥッラー／アフマド・ファドリー／ムハンマド・ガブドゥルハイ・クルバンガリー／王浩然（王寛）／達浦生／ミルサイト・スルタンガリエフ／ナズィル・トゥラクロフ

第10章 近代アフガニスタンの群像——大国のはざまで模索する国家統一 山根 聡

はじめに …… 419

ドースト・ムハンマド（一七九三～一八六三） …… 422
周辺国とのせめぎあい／第一次アフガニスタン戦争／国土の統一を目指して／第二次アフガニスタン戦争

アブドゥッラフマーン・ハーン（一八四四～一九〇一） …… 433
即位と国体の基礎固め／「知識の宝庫」／中央集権化への道／鉄の王／国境線の画定

ハビーブッラー・ハーン（一八七二～一九一九） …… 446
グレートゲームのなかの均衡／インド訪問で見た近代化／世界規模の戦争の渦の中に

アマーヌッラー・ハーン（一八九二～一九六〇）……452
第三次アフガニスタン戦争と独立／国家としての外交へ／バッチャエ・サカーウの反乱／中立外交による国体維持／外的勢力同士の相克を生き延びる
その他の人物……462
スルターン・ムハンマド・ハーン／マフムード・タルズィー／バッチャエ・サカーウ／アブドゥル・ガッファール・ハーン

第11章 国家建設を巡るモンゴル人の模索
――独立運動から人民共和国へ

青木雅浩

はじめに……467
ジェブツンダムバ・ホトクト八世（ボグド・ハーン）（一八六九？～一九二四）……472
一、モンゴル独立運動前夜　ジェブツンダムバ・ホトクトとは？／ダライ・ラマ一三世の外モンゴル来訪／独立運動への道
二、モンゴル人国家の元首として　モンゴル独立運動／国の元首、運動の求心力としてのボグド・ハーンの権威
三、国家消滅の危機の中で　外モンゴル自治の廃止／ボグド・ハーンと外モンゴル自治復興運動
四、ボグド・ハーンとソビエト　「政教を共に握る者」の変化／ボグド・ハーンを敵視するソビエト／ボグド・ハーンの崩御
エルベグドルジ・リンチノ（一八八八～一九三八）……486
一、モンゴル人民政府の指導者への道程　リンチノの登場／「大モンゴル国」建国運動からモンゴル人民党への協力へ
二、モンゴル人国家建設におけるリンチノの活躍　モンゴル人民政府の内情／政府におけるリンチノの地位と軍整備への貢献／モンゴル人国家建設におけるリンチノの方針／王公、仏教有力者との協力関係
三、政治闘争の嵐の中で　外モンゴルの政治事件／最初の闘争――ボドー事件／ソビエトの「干渉」との闘い――連立政権を巡って／連立政権解体と党大会の開催／リンチノとスタルコフの闘い／一九二四年夏の政変／次なる強敵――トゥラル・ルスクロフ／リンチノとルスクロフの政治闘争／外モンゴルからの退場
四、その後のリンチノ　家庭内のリンチノ／モンゴル人独立国家建設の実態
ハンダドルジ（一八六九～一九一五）……506
ツェレンチメド（一八七二～一九一四）……508
ツェレンドルジ（一八六九～一九二八）……510
その他の人物……512
グンサンノルブ／ダライ・ラマ一三世／アグワン・ドルジエフ／ハイサン／バボージャブ／ナムナンスレン／ジャルハンズ・ホトクト・ダムディンバザル／ウンゲルン／セミョーノフ／ハタンバートル・マグサルジャブ／

セツェン・ハン・ナワーンネレン／ボドー／ダンザン／スフバートル／チョイバルサン／ジャムツァラーノ／メルセ／チェレンドンロブ／アマル／ボヤンネメフ／ヤポン・ダンザン／トゥラル・ルスクロフ／ゲンデン／アマガエフ／ダムバドルジ

第12章　アラブの民族主義と立憲政治　松本　弘

はじめに……529

サアド・ザグルール（一八五八～一九二七）……531
一、生い立ちからオラービー革命まで
二、挫折から国民法廷判事就任まで
三、教育相就任から第一次大戦まで
四、一九一九年革命
五、一九二三年憲法と憲政の混乱

ムハンマド・ラシード・リダー（一八六五～一九三五）……562

ターハー・フサイン（一八八九～一九七三）……565

ハサン・アルバンナー（一九〇六～四九）……568

トマス・エドワード・ロレンス（一八八八～一九三五）……570

アブドルアジーズ・イブン・アブドッララフマーン（一八八〇～一九五三）……573

その他の人物……577
アフマド・ルトフィー・アッサイイド／ムスタファー・アブドッラージク／アリー・アブドッラージク／フサイン・イブン・アリー／アブドッラー・イブン・フサイン／ファイサル・イブン・フサイン／ハーッジ・ムハンマド・アミーン・アルフサイニー

第13章　アラブの近代とフェミニズムの開花　後藤絵美

はじめに……585

マラク・ヒフニー・ナースィフ（一八八六～一九一八）……588
フェミニズムの始まり／「砂漠の探究者」の誕生まで／エジプトで女性であること／一夫多妻をめぐって／ヴェールをめぐって／マラクが残したもの

ナバウィーヤ・ムーサー（一八八六～一九五一）……601
フダー・シャアラーウィー（一八七九～一九四七）……604
その他の人物……607
アーイシャ・タイムール／ザイナブ・ファウワーズ／ヒンド・ナウファル／カースィム・アミーン／マイ・ズィヤーダ

第14章 徹底した調査・統計による植民地統治の背景にあった思想 鶴見太郎

はじめに……611
後藤新平（一八五七～一九二九）……614
一、生い立ちから学僕時代
二、医生から病院長へ
三、衛生行政に関わる
四、台湾総督府
五、南満洲鉄道総裁
六、逓信大臣
七、寺内内閣内務大臣
八、外務大臣
九、東京市長
一〇、第二次山本内閣内務大臣
一一、「政治の倫理化」の主唱者
児玉源太郎（一八五二～一九〇六）……632
原敬（一八五六～一九二一）……634
本多静六（一八六六～一九五二）……636
国崎定洞（一八九四～一九三七）……638
その他の人物……640
板垣退助／北里柴三郎／永田秀次郎／アドリフ・アブラーモヴィチ・ヨッフェ／チャールズ・オースティン・ビアード／大杉栄／正力松太郎／杉山茂丸／中村是公

第15章 「国民作家」と現代の悲劇 姜尚中

はじめに……647

夏目漱石（一八六七～一九一六）……649
「父性」の権威の不在／「亡命者」のように生きる／広がる「世紀末」／英国への、明治への決別／「夏目漱石」の誕生／暗い予感
二葉亭四迷（一八六四～一九〇九）……662
幸徳秋水（一八七一～一九一一）……666
石川啄木（一八八六～一九一二）……673

第16章 草創期における日本の民俗学に秘められた力

鶴見太郎

はじめに……681
柳田国男（一八七五～一九六二）……683
地方知識人の子／農政官僚として／在野の学者として／戦後の活動
南方熊楠（一八六七～一九四一）……689
折口信夫（一八八七～一九五三）……692
渋沢敬三（一八九六～一九六三）……694
宮本常一（一九〇七～八一）……696
その他の人物……699
橋浦泰雄／赤松啓介／石田英一郎／瀬川清子／一志茂樹

第17章 大日本帝国下における民主主義の歴史的検証

成田龍一

はじめに……703
吉野作造（一八七八～一九三三）……706
生い立ちとふたつの留学／民本主義者・吉野作造のはじまり／一九一六年の吉野作造／改造の時代の吉野作造／無産政党論など
石橋湛山（一八八四～一九七三）……726
長谷川如是閑（一八七五～一九六九）……728
清沢洌（一八九〇～一九四五）……730

その他の人物……732
福田徳三／河上肇／河合栄治郎／吉野信次／赤松克麿／赤松明子／大山郁夫

第18章 近代日本における女性の歩み　中村敏子

はじめに……739
与謝野晶子（一八七八～一九四二）……742
平塚らいてう（一八八六～一九七一）……745
山川菊栄（一八九〇～一九八〇）……748
市川房枝（一八九三～一九八一）……752
高群逸枝（一八九四～一九六四）……756

第19章 沖縄言論人とアジアの思想潮流　比屋根照夫

はじめに……765
伊波月城（一八八〇～一九四五）……769
琉球処分後の新人世代／「旧人と新人」／青年イタリア、青年トルコへの共鳴／兄・伊波普猷の思い／トルストイへの沈潜／二葉亭四迷の革新性／アメリカの変貌／内村鑑三のアメリカ批判／辛亥革命への評価／大正デモクラシーの徒／アジアに開かれた眼差し
伊波普猷（一八七六～一九四七）……793

執筆者一覧
写真提供・図版出典